

【中学校】 【外国語科】 の自ら学習を調整する活動に重点を置いた授業実践

日 時 令和6年9月18日(水)～10月7日(月)

対 象 花巻市立花巻中学校 第2学年 1クラス

授業者 総合教育センター 主任研修指導主事 向口 千絵子

1 単元名
PROGRAM 5 Work Experience (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

2 単元の目標
職業体験で学んだことについて、お互いの苦労や努力等を共感し合いながらスピーチの発表会をするために、簡単な語句や文を用いてスピーチをすることができる。

3 単元の評価規準「話すこと [発表]」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞+to 不定詞、look, get 等+形容詞、become+名詞 [形容詞]、主語+give, buy 等+目的語+形容詞を用いた文の構造を理解している。 ・職業体験について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、疑問詞+to 不定詞、look, get 等+形容詞、become+名詞 [形容詞]、主語+give, buy 等+目的語+形容詞などの簡単な語句や文を用いて学んだことなどを話す技能を身に付けている。 	<p>職業体験で学んだことについて同学年の様々な人と共有するために、共有したい発見・苦労(事実)や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができている。</p>	<p>職業体験で学んだことについて同学年の様々な人と共有するために、共有したい発見・苦労(事実)や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。</p>

4 自ら学習を調整する活動を促す学習指導
<p>視点1 「学習の見通し」 ●学習過程の可視化と学習課題の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標と具体的なゴールの言語活動を常に確認しながら学ぶことができるよう、単元学習シートを共有する。 ・実際に行われた職業体験と関連付けた授業構成により、言語活動を内容面・言語面で振り返る際に生徒がより自分事として課題を捉え、主体的に学ぶことができるようにする。 <p>視点2 「学習課題を解決するための学習活動」 ●自己評価や言語活動の改善を促す学習過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験での経験(事実)や自分の考えを整理し、適切に話すことができるようにするために、ペアやグループでの言語活動を設ける。 ・言語活動の振り返りを行い、友だちの言語活動の工夫等から学んだことを、自己の学習課題の解決につなげていくことのできるよう、指導の個別化を図る。 ・学習者用デジタル教科書等 ICTを積極的に活用し、音声等を確認したり、自分のスピーチに必要な表現を参照したりするなど、自ら学習を調整することのよさを共有できるようにする。 <p>視点3 「学習の振り返り」 ●学んだことの自覚化を促す場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学びを通して気付いたことを交流したり、単元学習シートに課題の解決に向けての達成状況を記入したりすることで、どのような学習方法で自身の言語活動の改善が図られたかの自覚化を促し、達成感を次の学びへとつなげられるようにする。

5 単元の指導と評価の計画（全体7時間）					
時	ねらい（■）・主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	◇評価[評価の観点] ◆生徒が自ら学びを調整する学習指導
1	<p>■単元の目標と学習内容について理解し、自己目標を設定する。</p> <p>①職業体験について教師とやり取りし、題材に関する興味・関心をもつとともに、単元のゴールとなる言語活動についてイメージをもつ。</p> <p>②職業体験に関してメモを基にスピーチを行いグループの人と考えを伝え合う。（単元のゴールで行うパフォーマンス課題に現段階でどの程度取り組むことができるかの確認）</p> <p>③単元のゴールの活動を理解する。</p> <p>④単元の自己目標を設定する。</p>				<p>◆単元の目標と学習内容について理解し、見通しをもつ。</p> <p>◆言語活動を振り返り、単元の目標を達成するために、どの点をどのように頑張れば良いかを考え単元学習シートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p> </div>
2	<p>■職業体験に関する英文を聞いたり読んだりして、概要や要点を捉え、ペアで伝え合う。</p> <p>①職業体験について書かれた教科書の本文を聞いたり読んだりして、表に整理しながら把握する。</p> <p>②疑問詞+to 不定詞の働きや構造について、様々な例を通して気付く。</p> <p>③スピーチを改善する表現を考えるために、ペアやグループで音読活動を行う。</p> <p>④自分のスピーチを改善する視点で振り返りを行う。</p>				<p>◆言語活動を行った後、振り返りを行う。</p> <p>◆学習者用デジタル教科書を各自のペースで使用できるようにする。</p>
3	<p>■職業体験を通して「分かったこと」をペアに伝える。</p> <p>①職業体験を経験した登場人物が、「見学して分かったこと」を相手に伝える表現に注目して読む。</p> <p>②look, get 等の動詞+形容詞、become+名詞 [形容詞]の働きや構造について、様々な例を通して気付く。</p> <p>③スピーチを改善する表現を考えるために、ペアやグループで音読活動を行う。</p> <p>④自分のスピーチを改善する視点で振り返りを行う。</p>				<p>◆ペアやグループでの活動後に、他の人が話していた内容や話し方の工夫について参考にできるようにする。</p> <p>◆学習者用デジタル教科書を各自のペースで使用できるようにする。</p>
4	<p>■職業体験を通して「自分が成長したと思うこと」をペアに伝える。</p> <p>①職業体験を経験した登場人物が、「最も印象に残っている出来事」を相手に伝える表現に注目して読む。</p> <p>②主語+give, buy 等の動詞+目的語+形容詞の働きや構造について、様々な例を通して気付く。</p> <p>③キーフレーズを基に、職業体験で「自分が成長したと思うこと」を話したり聞いたりする。</p> <p>④どのようなコメントや質問が、伝え合いをよりよくするか考える。</p>				<p>◆振り返りを交流し、目標を達成するために工夫していることを学び合う。</p> <p>◆スピーチを聞いた後の質問や、やり取りの在り方について、モデル等を参考にしながら分析する。</p> <p>◆学習者用デジタル教科書を各自のペースで使用できるようにする。</p>

5	<p>■学年の発表会に向けて、学級でのグループ内で発表を行い、記録に残す。</p> <p>①ペアやグループで職業体験について伝え合う。</p> <p>②言語活動の振り返りを行う。</p> <p>③スピーチを聞いた際のコメントや、相手の体験についてより詳しく知るための質問について、整理する。</p> <p>④スピーチのためのメモを改善する。</p>	○	○	○	<p>◇活動の観察と動画記録から、発話中の英語使用の正確さについて評価する。[知識・技能]</p> <p>◇活動の観察と動画記録、振り返りの記述から、聞き手を意識して、感じたことや考えたことを話すことができるか、話そうとしているか評価する。[知識・技能][思考・判断・表現][主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>◆単元の目標に照らして、よりよい発表会にするために必要な言語活動の改善について考える。</p>
6	<p>■よりよい発表会にするための準備に必要なことを考えて個々に必要な学習に取り組む。</p> <p>①職業体験を通して学んだことを発表・やり取りする際の言語活動について、「お互いの苦労や努力等を共有し合う」という目的に照らして見直す。</p> <p>②ロイロノートのこれまでの記録や、学習者用デジタル教科書、友達との教え合い等、どのような方法で発表会に向けた準備を行うか、自分で決定し、活動に取り組む。</p> <p>③活動の振り返りを行う。</p>				<p>◆単元の目標に対して自分に必要な活動を考え行動できるようにする。</p> <p>◆学習者用デジタル教科書を各自のペースで使用できるようにする。</p> <p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>
7	<p>■同じ学年のグループで、職業体験を通して学んだことを、お互いの苦労や努力等を共有し合いながら発表する。</p> <p>■単元の学習を振り返り、できるようになったことを確認する。</p> <p>①職業体験に関してメモを基にスピーチを行いグループの人と考えを伝え合う。(話すこと[発表])【パフォーマンス課題】</p> <p>②単元の学習を振り返り、できるようになったことや、なぜできるようになったかについて書く。</p> <p>③今後どのように自分の学習を進めていきたいか考える。</p>	○	○	○	<p>◇発表の観察と動画記録から、発話中の英語使用の正確さについて評価する。[知識・技能]</p> <p>◇発表の観察とグループの動画記録、振り返りの記述から、聞き手を意識して、感じたことや考えたことを話すことができるか、話そうとしているか評価する。[知識・技能][思考・判断・表現][主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>◆発表会までの取組を振り返り、できるようになったことや、なぜできるようになったか、これからの学習に向けて取り組みたいことを書いて自覚化する。</p>
後日	ペーパーテスト、パフォーマンステスト	○	○	○	<p>◇学期末の総括的評価の場面で、言語材料についての理解の状況や、話すことの習熟状況を評価する。[知識・技能][思考・判断・表現][主体的に学習に取り組む態度]</p>

6 生徒が自ら学習を調整する姿

視点1「学習の見通し」●学習過程の可視化と学習課題の明確化

第1時 言語活動を通して学習過程への意識を高め、コミュニケーションの見通しを立てる場面

本年度のCAN-DOリストに基づいた単元全体の目標と、ゴールでの言語活動を確認した。生徒一人一人がコミュニケーションの目的や場面、状況等をできるだけ具体的に理解するための活動として、学年の生徒全員が取り組んだ職場体験について、スピーチの発表会を行うこととした。

単元全体の学習過程について、単元学習シートを基に見通しをもった後、現段階で自分は何のくらい話することができるのか自覚化を図るために、ゴールの活動と同様に職場体験についてのスピーチをペアで伝え合う活動を行った。多くの生徒は、スピーチ用メモを作成するより、図1の(4)ゴールの活動のルブリックに示された三つの条件に沿って話そうと考える生徒が最も多かった。発話では動詞の過去形の誤りや、条件3の感じたことや考えを表現することがスムーズに出てこないという声が聞かれた。

(多かった発話の例)

I go (体験場所) .

I play child.

Tired.

スピーチをペアで伝え合う際、短時間での準備ではあったが、教科書の表現、辞書、PCでのインターネット検索機能等、自身の選択した情報検索の方法で、すばやく発信までの方向性を自己決定し表現しようとする姿が見られた。

この時点で、実際の言語活動を通して現在自分が話すことのできる表現を確認するとともに、他の生徒が既習の表現をどのように思い出しながら話す準備をしているかを共有し、今後自分がどのような方法で言語活動を改善していくかの見通しをもっていた。

本単元では、領域としては「話すこと

(発表)」を評価することとするが、相手意識をより強くもてるよう、他のクラスの生徒が職場体験を通してどのような事を感じているのかを、英語によるコミュニケーションを通して知る活動を設定した。第1時では、生徒がゴールで行う活動を実際に体験した後、発表会でのイメージをより明確にするために、教師が相手のスピーチを聞いた後にコメントをしたり、質問をしたりして「やり取り」を行う様子を具体的に示した。代表の生徒に教師のデモンストレーションを一台端末で撮影してもらい、学級全員がロイロノート上でいつでも繰り返し見られるようにすることで、生徒が自らの学習を調整しながら自身の言語活動を改善していくことができるよう工夫した。

1. 単元の目標とゴールの活動を確認しよう

(1) 花巻中学校の今年度の目標

領域	2年生到達目標 (CAN-DO)
話すこと	日常的な話題(職業体験)について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

(2) 単元の目標

職場体験で学んだことについて、お互いの苦勞や努力等を共感し合いながらスピーチの発表会をするために、簡単な語句や文を用いてスピーチをすることができる。

(3) ゴールの活動

職場体験で学んだことについて同学年の様々な人と共感し合えるように、共有したい発見・苦勞(事実)や自分の考え、気持ちなどを整理して発表し合うグループ内での発表会を行う。

※本単元での「発表会」とは 3~4人のグループ内で、

- ①職場体験の写真2枚をもとにしたスピーチ
- ②感想を伝えたり質問したりするやり取り

を行うことを指します。

(4) ゴールの活動のルブリック (評価基準)

条件1: 職場体験でどこに行ったのかを話している。
条件2: 職場体験で何をしたかがはっきりと話されている。
条件3: 職場体験について、自分の感じたこと、考えを話している。

評価	内容	英語表現
A	相手に事実や自分の考えが伝わるよう、くわしく話す工夫をしたり、構成を工夫したりしながら、3つの条件を満たして話している。	まとまった量の英文で、事実や考えを伝えるために適切な表現を、ほぼ正確に話している。
B	3つの条件を満たして話している。	言い間違いや語順の間違いがあっても、聞き手が内容を理解できるよう英語で話している。
C	3つの条件を満たして話していない。	不正確な英文が多く、聞き手が内容を理解することが難しい。

図1 生徒と単元の目標を確認した資料



図2 教科書や辞書の活用

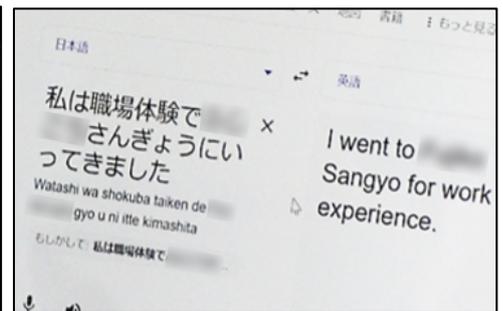


図3 インターネット検索による確認

第1時の終末、自己の学習状況の確認と、ゴールの活動に向かってどのように学習を進めていくかを考える場面を設けた。多くの生徒は聞いたことに対して感想を述べたり、質問したりすることに難しさを感じていたが、相手とのやり取りがあることを確認し、相手意識をもってスピーチを改善していくこと、どのような方法で改善していくかを考えていた。

2. 単元の自己目標と、目標達成のための工夫を考えよう

(1) 今の自分の状況を確認しよう

自分が職場体験で体験したことや感じたことについて話してグループの人に**話して伝えたり**、話したことをもとにグループの人と**やり取りする活動**を行ってみて、困ったことや難しかったことはどんなことでしたか。次の項目の当てはまるものを全てを選んでください。

- 特になかった
- 自分の職場体験の内容を話すこと
- グループの人の話したことに感想を述べること
- グループの人の話したことに質問すること
- グループの人からの質問に応えること
- その他()

図4 単元の自己目標を立てる際に言語活動を振り返る項目

表1 生徒が記述した単元の目標

- ・グループで話したり聞いたりして見て、自分分かる単語しか言えなかったの、まず単語を覚えるところからスタートし、どんどんステップアップして英語で感想を言ったり、英語で交流できるよう頑張りたいです。
- ・英語で会話をもっとして、相手の聞き間違いがないくらい丁寧な発音にする。
- ・英語でやり取りができるように、うまく話したり伝えたりできるよう頑張りたい。くわしく話せるように構成をしっかりと作ることも頑張りたい。
- ・相手の話している内容が少しでも分かるようになって、どんなことをしたのか知れるようになりたい。
- ・自分の伝えたい事を相手に話すことに慣れていきたい。自分で考えて思っていたことをその場で文章にして言えるようになりたい。そのためにも、文の構成をしっかりと理解して使い分けができるようにし、知っている単語を増やしていろんな表現ができるようにしたい。

生徒が自分の学習に対する取組の方向性を主体的に考えることができるようにするためには、単元のゴールについて一方的に教師の説明を聞くだけでなく、実際に言語活動を体験することを通じて、今後の学習過程への見通しをもち、自己調整することのできる場面設定の工夫が必要である。

視点2 「学習課題を解決するための学習活動」 ● 自己評価や言語活動の改善を促す学習過程

第3時 学習者用デジタル教科書等ICTを活用して自分のスピーチの言語面、内容面の改善を図る場面

第1時で単元のゴールの活動イメージをもった際に、生徒の自発的な活用が少なかった学習者用デジタル教科書について、生徒が自分のペースで操作する時間を設けた。生徒が、スピーチの改善に生かすことのできる表現の知識を得たり、発音の確認をしたりするために有用であることを感じられるよう、個人での使用の際にはイヤホンを使用した。生徒は、自身の必要とする音声情報に集中し、繰り返し聞いたり、速度を調節したりしながら学習者用デジタル教科書の自分なりの使用の仕方を探っていた。短い時間での操作であっても、個別での使用を継続することで、生徒は互いに有用な方法を教え合うなど、目的に応じた使用ができていた。

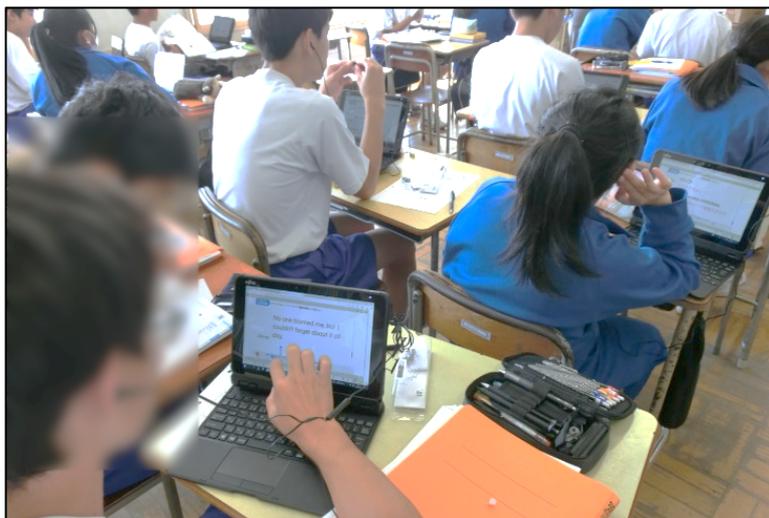


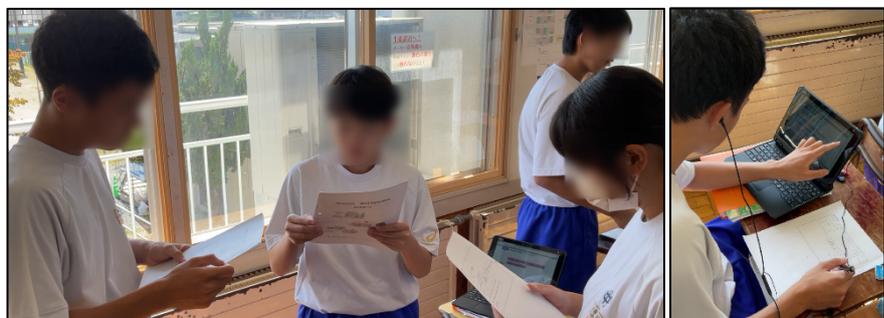
図5 個人のペースでの学習者用デジタル教科書の操作

また、教科書の職場体験に関する英文を音読する個人練習と併せて、音読の録音課題に複数の生徒が協働で取り組む活動を通じて、発音の難しい表現を互いに確認したり、学習者用デジタル教科書の機能で分からないことを教え合ったりと、互いの学習の様子を知って自身の学習の改善に生かそうとする姿が見られた。



左から図6・7・8 協働で取り組む活動を通して自分の学習の調整を図る生徒たち

言語活動の途中で、メモを基にどのようなスピーチを行ったか全体共有する際には、単元の目標である「職場体験について、お互いの苦労や努力を共感し合う」ことに対して、言語面、内容面での振り返りを促した。コミュニケーションの目的や場面、状況等を踏まえて、教科書等の英文を取り入れる工夫



左図9 グループでの実際の言語活動場面

右図10 言語活動後デジタル教科書を用いて音声の確認を行う場面

をしている生徒の例を全体で共有することで、相手意識をもって自分の言語活動を改善するために、他の生徒のスピーチをよく聞こうとしたり、学習者用デジタル教科書の音声を確認したりするなどの自ら学習を調整しながら学ぶ姿につながるよう工夫した。

なお、生徒が学習者用デジタル教科書を使用して音読練習を行う際には、単元のゴールで自分のスピーチに生かすことのできる表現を確認するため、和訳を表示しながら音読を行う生徒も多かった。明確な単元計画に基づいて、初見での英文読み取りの活動をどこで行うか等、各活動の目的を生徒もその都度意識して活動できるようにすることが大切である。適切な言語活動を展開する上でも、学習者用デジタル教科書の特質を生徒自身もよく把握し、学び方の工夫を自己決定しながら学習を進めることに熟達することができるよう、継続的な指導を行うことが求められる。

視点3「学習の振り返り」 ●学んだことの自覚化を促す場の設定

第4時 単元の途中段階で学習を振り返り、自身の学習で調整の必要なことについて考える場面

単元の途中で、これまでの学習過程を見つめ、単元のゴールの活動に向けて自身が立てた目標に対して、できるようになってきたことや難しいと思うことを振り返る場面を設けた。

生徒に記述させる際の問いかけは、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）第3編 事例5「主体的に学習に取り組む態度」の評価 4「自己調整」を図ることができるようにするための指導に示されている例を参考にした。

表2 生徒が記述した振り返り

(現在の状況を確認し、目標達成に向けて今後何をすればよいか考えましょう)		
	(1) 第1時からこれまでの学習で、できるようになってきたことは何ですか。	(2) これまでの学習で難しいと思うことは何ですか。また、それができるようになるために、今後どんな工夫をしようと思いますか。
生徒1	まだスムーズには言えないけど、新しい単語や例文なども使って文を作れた。	文章を作るのが難しいと思います。今後はワークなどで練習しようと思います。
生徒2	自分がどこに行ったのかを言えるようになった。文書を読めるようになってきた。	少ない単語から文書を作り出すのが難しい。自分が何をしたのかが言えない。
生徒3	職業体験の記憶を英訳し、簡単な文をつくること。	スピーチできる量の文の作成。表現を簡単なものにして考える。
生徒4	相手が話しているのを上手く聞く。	英語を相手に上手く伝えることが難しいと思った。他の人の発音などを聞いて学びたい。
生徒5	単語の意味を理解して読むことができるようになった。大切なことなどの文のつくり方が少しでも分かった気がする。	自分の思っていることや表したいことを文に起こすことが難しいと思った。今までに習ってきた表現で文を作っていきたい。

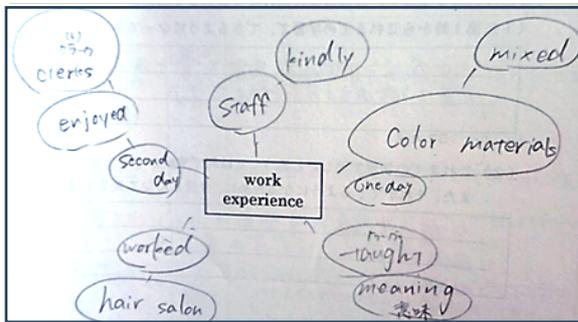


図11 生徒2が作成したスピーチ用メモ

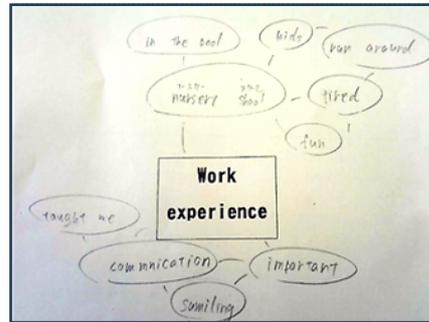


図12 生徒5が作成したスピーチ用メモ

単元のゴールでの言語活動で求められる条件に照らし、実際の言語活動と振り返りを繰り返したことで、自身が立てた単元の目標に対して、できるようになってきたことや難しいと思うことを自覚し、次の学習への目標をもつ生徒の様子が見えてくる。

第7時 単元のゴールでの言語活動で、他のクラスの生徒と混じったグループで言語活動を行う場面

表3 生徒の記述した単元末の振り返り

	(1) この単元での学習を通して、できるようになってきたことは何ですか。また、なぜできるようになってきたと思いますか。	(2) これからの学習で、さらにできるようになりたいことは何ですか。
生徒1	相手の目を見て話せた。いつもはよくカンペを作ってそればかり見ていたけど、今回は単語のチャートだけだったので、しっかり考えて言いたいことをしっかり話せた。おかげでけっこういいねにしゃべれた。	自分で内容を考えてしっかり話せたので、かなりハードルが高いけど、その場で考えて答える今回の質問みたいなのが焦らずしっかりできるようになりたい。
生徒2	学んだことなどを文に起こして言うことができるように少しはなった気がする。簡単な文でも言うことができるようになって良かった。	もっと今よりも難しい文を作って言えるようになりたい。簡単な文でも意味がしっかり伝えられるようにしたい。
生徒3	たくさん教科書を参考にしたからメモだけで話せるようになった。	より少ないメモで話せるようにしたい。
生徒4	どんな意味なのかを自分で考えることや、知っている単語を使って頑張って伝えようとするのができた。他の人の発表・質問を聞いて、自分に生かすことができた。	英語が苦手だけど、発表してみてもっと知っている言葉を増やして使えるようになりたいと思った。大変で難しかったけど頑張ることができた。
生徒5	今まではあまり自分で文を考えて言うということが無かったけど、この学習を通して文を考えて書き、相手に伝えることができるようになった。	これからの学習でも分からない部分はあると思うけど、あきらめずにこの学習が生かせるようにしたい。

本単元では、対話的な学びにおける思考・判断・表現の質をより高めるために、単元のゴールでの活動の相手を、普段は別々に外国語を学んでいる他のクラスの生徒とした。言語活動を通して初めて知る事実や、相手の話す考え、思いを真剣に受け止めて言語活動を継続しようとしていた。各単位時間の学びを進めてきたことを基に、自ら学習を調整し、段階的に自信を深めていた。(図13)。



図13 他のクラスの生徒と言語活動を行う様子

単元終了時の振り返りの記述には、自身の変容について気付いたことや、今後の学習で、より難しい課題にも粘り強く取り組もうとする意志が表れている。

外国語科の評価についての考え方において、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」とは基本的に一体的に評価を行うものであるが、「主体的に学習に取り組む態度」は時間をかけて育まれることから、本単元の生徒の振り返り記述のみではなく、学期の他単元における〔話すこと〕領域の言語活動の様子を踏まえて評価を行う点に留意が必要である。

中学校学習指導要領解説(平成29年告示)外国語編 第2章外国語科の目標及び内容 第1節 外国語科の目標(2)には、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくための学習過程が示されている。

- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

これらの流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりする学習を充実させることは、教師の一斉指導のみでは難しい。教師は、生徒が自ら学習を調整することを促しながら、どんな学習方法で自身の言語活動の改善が図られたかの自覚化を図り、得た達成感を次の学びへとつなげることで、自立的に外国語を学ぼうとする態度を育成したい。そのためにも、ICT等を活用しながら個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることを目指す単元構想が必須である。